

【第4会場:4S05教室(10)】

団体名:公益社団法人 国際日本語普及協会(AJALT)

AJALT(公益社団法人 国際日本語普及協会)は、日本語を通して、文化や習慣を異にする人々が互いに理解しあい共存しあう社会の実現をめざして事業活動をすすめています。



多様な日本語教育・教師養成プログラム・教材の開発

- 外交官、ビジネスパーソン、留学生、研究者、福祉事業者、難民、技能実習生、地域在住外国人など日本在住のさまざまな背景、国籍、言語、年代の学習者のニーズに応じていくために、つねに発想の転換、新たなチャレンジを重ねて、日本語教育に取り組んでいます。
- 多様な現場経験にもとづき、一般社会人、ビジネスパーソン、技能実習生、年少者等、対象別の教材開発や教師養成を実施しています。

地域日本語支援の課題への取り組み

- 文化庁委嘱による日本語コーディネータ・ボランティア・人材育成等の研修を通して、都道府県、市町村の現場との交流を深めてきました。
- 各地の自治体、国際交流協会、ボランティア団体等から依頼を受けて、各日本語支援現場のニーズに応じた講習を行っています。
- 「リソース型生活日本語」をはじめ、地域在住外国人のための教材開発・提供を行っています。
- 地域日本語教育相談や各地の情報交換のためのメルマガ「こだま」の発行を続けています。
- よりよい支援への提言のための調査研究活動も実施しています。

広報活動

- 年一回、機関誌『AJALT』を発行し、日本語教育の現状と課題を広く社会に発信しています。
(第37号2014年6月1日発刊 特集「文字は旅する」)

★詳しくは、当協会HPをご覧ください。 <http://www.ajalt.org/>

事業実施概要

事業名称	難民を中心とした定住者のための日本語学習支援、日本語学習用教材作成および支援者養成事業
地域の課題	難民認定申請中やまだ認定されていない定住者を含め、全ての難民が十分な学習機会に浴しているわけではなく、難民およびその家族等の定住者が安全かつ健康に、地域とよりよい関係を保ちながら、文化的な生活を送るための学習機会の充実が望まれる
事業の目的	難民やその家族等定住者が、生活日本語および日本社会で生活していく上で必要な知識を習得し、本人の能力を生かしながら生活の安定、質の向上が図れる機会を拡充する
事業の概要	日本語教室の設置・運営
	<p>名称：難民を中心とした定住者のための日本語学習支援事業</p> <p>目的：日本語学習の機会を提供し、定住者の生活の安定、質の向上を図る</p> <p>対象：難民を中心とした定住者</p> <p>人数：12人（主な出身・国籍：ミャンマー等）</p> <p>時間：週2回×2時間（全30回）</p> <p>内容：日本社会で生活していくために必要なテーマ（買い物、交通機関の利用、病院での受診、不在連絡票、緊急電話、年中行事等）に沿って実践的に役立つ知識を学習</p>
	日本語教育を行う人材の養成・研修の実施
	<p>名称：難民を中心とした定住者のための支援者養成事業</p> <p>目的：支援者研修を実施することにより、定住者の生活の安定、質の向上を図る</p> <p>対象：定住者支援に現在関わっている、または今後関わる意思のある人</p> <p>時間：週1回×2時間（全15回）</p> <p>人数：延べ31人（出身・国籍：日本）</p> <p>内容：支援を行う際に必要な基礎知識（日本語の音声、文字、構造等）の学習、及び「日本語教室」での実践研修</p>
成果と課題	日本語教育のための学習教材の作成
	<p>名称：難民を中心とした定住者のための日本語学習用教材作成事業</p> <p>目的：定住者の生活の安定、質の向上に資する日本語学習支援用教材の作成</p> <p>対象：難民を中心とした定住者</p> <p>構成：イラスト入り教材（全122ページ）</p>
発表者から一言	ポスター発表では、本事業の成果物である日本語学習支援用教材を実際にご覧いただきながら、事業の成果等につき説明いたします。